

「自分の中にどれだけ大きな偏見があるのかということに気付きました
～少年院の経験 居場所と誇りを作る日本と海外の実践
～」

国際医療福祉大学大学院
東京青山キャンパス
助産師 神山綾乃

少年院経験者は犯罪者＝怖いと思っていました。
“必要とされていること”の重要さは常に感じていることでした。
“社会復帰”“社会に理解される”という言葉自体が、「社会と違う」という
偏見を持った価値観だったということに気付きました。

先生方の本音のお話、心にグッときました。
少年院の経験がある人なんて怖くて近づけないなんて私の勝手な思い込みでし
た。少年院出院 15 分が重要でそれ次第では再び同じ道へも行きかねない。セ
カンドチャンスの活動、クリスの活動素晴らしいです。写真に写っている参加
者の顔は仲間に囲まれて本当に嬉しそうな笑顔でした。経験者にしか分からな
い心情、自助グループの活動のすごさを感じました。

人は誰でも必要とされていることを求めているのだと思います。
それが過去の過ちから認められないとしたらそんな辛い人生はないですね。
犯罪者のその後の人生を考えたこともありませんでした。更生したいと思っ
ても自分の弱さや環境が誓い通りにはさせてくれない状況にあること、話を
聴いて納得しました。

今日話を聴いて、今までの一方的な価値観に気付きました。
自分の中にどれだけ大きな偏見があるのかということに気付きました。
「社会復帰」という言葉を良く使っています。それ自体が差別をしているなん
て感じることもできませんでした。
知らず知らずの内に社会から排除するような考え方をしていて、相手はどう感
じていたのだろうと申し訳なさでいっぱいです。そこに気付くために、いろん
な人と出会って、いろんな話をして、人それぞれの多様な価値観を受け入れて
いけるようになりたいと心から思いました。

私の狭い世界を広げてくれてありがとうございました。

そして今後もセカンドチャンスの活動を各地に広めていってください。